

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 9 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2012～2014

課題番号：24404021

研究課題名(和文) 散在する仏教遺跡群と周辺地域に対する包括的な保全計画のあり方に関する研究

研究課題名(英文) Research of integrated preservation planning for scattered Buddhist heritages and their surrounding region

研究代表者

西村 幸夫 (NISHIMURA, YUKIO)

東京大学・先端科学技術研究センター・教授

研究者番号：20159081

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、主に現地調査と文献調査により、ルンビニおよび周辺地域(インド北部を含む)における仏教遺跡の成り立ち、これまでの保全の取り組み(国連主導のもと1970年代に丹下健三が立案したマスタープランの進捗状況と都市計画及び建築許可に関する実態)とその評価、仏教遺跡が直面する現代の課題を明らかにした。

上記で得られたルンビニ地域の近代における形成史、周辺に散在する遺産群の特性の把握、遺産周辺地域の自然的・文化的景観と住居等の建造物の類型化、さらに既存の国内法を踏まえた課題の考察を踏まえ、仏教遺跡および周辺に関する包括的な保全計画のあり方として包括的保全手法を構築した。

研究成果の概要(英文)：The study clarified following three points mainly by field surveys and literature reviews in Lumbini and its surrounding area including the northern India. 1) The history of Buddhist ruins, 2) the conservation effort and its evaluation through the progress of Kenzo Tange's master plan in 1970s by United Nations and local regulations such as land-use control and building permission, and 3) the contemporary challenges, which Buddhist ruins have faced. Combining these findings, the study constructed a comprehensive conservation method for the Buddhist ruins and surrounding areas as a conclusion.

研究分野：工学

キーワード：仏教遺産 世界遺産 ネパール ルンビニ 都市保全

### 1. 研究開始当初の背景

我が国をはじめ、アジア各国に数多くの仏教遺跡が残っており、それぞれの国で重要な文化財として認識されており、世界遺産への登録が行われるものも少なくない。しかし、遺跡自体は専門家により適切な保全・修復が実施されているが、観光開発に晒される周辺地域に対する適切な都市計画が行われている事例は少ない。特に空間的な広がりを持つ遺跡群に対しては、考古学と連携して周辺景観の歴史的・文化的価値を適切に評価し、遺跡自体と周辺地域に対する包括的な保全計画が求められている。

### 2. 研究の目的

仏教遺跡は考古学的保全の対象となっているが、遺跡周辺を含む包括的な地域保全計画の取り組みは遅れている。本研究の対象地であるルンビニは、ネパール西部に位置し、ブッダ生誕の地として知られ、周辺にも多くのブッダ関連遺跡や自然的景観が残っている。ルンビニ自体は国連主導のもと、1970年代に丹下健三がマスタープランを立案、1997年には世界遺産に登録され、一定の遺跡保全が行われている。一方で近年、観光開発が進み、仏教遺跡や自然景観を含むルンビニ周辺地域全体の保全が課題となっている。

本研究は、ルンビニ周辺地域仏教遺跡の実態と、現地の法体系を踏まえた保全計画を調査し、単体の保全に留まらない、アジア地域における仏教遺跡を中心とした地域保全計画の方法論を明らかにすることを目的とする。

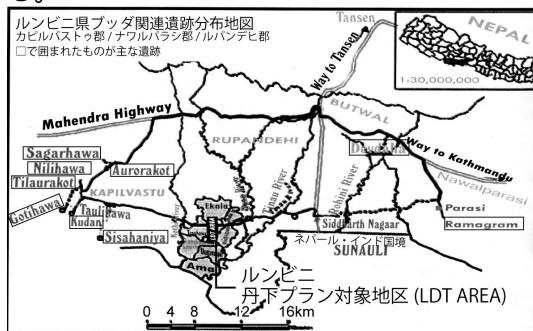


図 ルンビニ周辺のブッダ関連遺跡分布地図 (UNESCO 提供地図に加筆して作成)

### 3. 研究の方法

ルンビニ周辺地域を主な調査研究対象としたが、歴史的視点においては一体の遺跡群であるインド北部の仏教遺跡および周辺地域についても必要な調査を実施した。

本研究は、下記に明記する4つの研究分野を( )内の研究分担者が担当し、代表者の研究室に所属するポストドクター及び博士・修士課程の学生も参加して研究代表者である西村が統括、研究分担者の黒瀬が統括作業を補助した。各研究分野における研究方法は、次の通りである。

ルンビニおよび周辺地域における仏教遺跡の成り立ちと現状(和歌山大学 永瀬節

治/東京大学 窪田亜矢): UNESCO およびネパール政府考古学局、国際専門家からの情報提供および現地調査

これまでの保全の取り組みとその評価(東京大学 黒瀬武史): UNESCO およびネパール政府考古学局へのヒアリングおよび基礎自治体の実態調査

仏教遺跡が直面する現代の課題(東京大学 窪田亜矢/Christian Dimmer): ルンビニ開発トラストや地域住民へのヒアリング・政府提供の過去の地図/航空写真の調査

仏教遺跡および周辺に関する包括的な保全計画のあり方(東京大学 西村幸夫/黒瀬武史): 本分野は、上記3分野の調査を取りまとめた後の最終年度に実施することとし、保全対象の抽出と保全手法の検討を行う。

また、本研究はネパール政府文化庁およびUNESCO カトマンズ事務所より、全面的な支援を得るほか、UNESCO の国際専門家チームより考古学及び遺跡保全手法について情報提供を受け、進めるものとする。

### 4. 研究成果

現地調査、文献調査から次の8点を明らかにした。

- (1) 第1分野の研究では、ルンビニおよび周辺地域(インド北部を含む)における仏教遺跡の成り立ちを、UNESCO、ネパール政府考古学局、国際専門家からの情報提供および現地調査をもとに、ブッダの生誕および生涯に関する遺跡、仏教に関連する王朝等の遺跡などに関して整理した。
- (2) 第2分野の研究では、ルンビニにおけるこれまでの保全の取り組みを明らかにし、その評価を行った。特にネパール国内法、国連主導のもと1970年代に丹下健三が立案したマスタープラン(丹下プラン)の進捗状況、都市計画及び建築許可に関する実態を明らかにした。
- (3) 次に、ネパールの国内法においてルンビニの保全整備を効果的に実施する施策に関して、UNESCO カトマンズ事務所とネパール政府考古学局への実態調査を実施し、現在進行中であるアジア開発銀行による観光関連の融資事業の影響が大きく、これをいかに保全整備に活用できるかという計画フレームの作成が重要であることを明らかにした。
- (4) また、そのための調整役を本研究により我々が担っていることによって、おおきく保全整備の推進に実質的に貢献していることを明らかにした。
- (5) 第3分野の研究では、ルンビニ周辺地域が直面する現代の課題を、現地調査をもとに明らかにした。特に観光客の増大やそれに伴う観光施設の建設による文化的景観の喪失、観光開発の圧力、信仰上の理由による寄進などによる現状変更

- の実態を明らかにした。
- (6) さらに、ルンビニ及び周辺地域の市街地開発の状況に関しては、包括的な状況把握が行われ、インド国境からの工業生産品製造の圧力が高く、環境問題が発生していることが明らかとなった。
- (7) また、地域におけるインフラ整備に着目すると、アジア開発銀行の融資事業の進捗に伴い、幹線道路の沿道の市街化が、東側地域より徐々に進行している様子が明らかとなった。
- (8) 最後に、第4分野にて仏教遺跡および周辺に関する包括的な保全計画のあり方として、ルンビニ地域の近代における形成史、周辺に散在する遺産群の特性の把握、遺産周辺地域の自然的・文化的景観と住居等の建造物の類型化から、既存の国内法を踏まえた課題の考察より、包括的保全手法を構築した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計10件)

窪田亜矢「水郷の商都・佐原における「記憶の枠組み」についての研究」『日本建築学会計画論文集』第79巻第705号、有、pp2443-2452、2014.11

森朋子、黒瀬武史「カンボジア・アンコール遺跡群における文化遺産地域の保全手法」『日本都市計画学会論文集』No.49-3、有、pp249-254、2014.10

矢吹剣一、西村幸夫、窪田亜矢「歴史的市街地における空き家再生活動に関する研究」『日本都市計画学会論文集』No.49-1、有、pp47-52、2014.4

児玉千絵、窪田亜矢「建築基準法第39条災害危険区域に着目した土地利用規制制度の理念に関する研究」『日本都市計画学会論文集』No.48-3、有、pp201-206、2013.10

窪田亜矢「水郷の景観的価値：江戸城外濠の都市デザイン」『水環境学会誌』第36巻(A)第4号、無、pp118-122、2013.7

窪田亜矢「観光と文化財：継承すべき価値を活かした観光空間形成」『住宅会議』88号、無、pp8-12、2013.6

北川貴巳、馬場弘樹、窪田亜矢「歴史的な市街地における空地の実態及びその形成原理についての考察」『日本建築学会計画系論文集』No.685、有、pp615-624、2013.3

Christian Dimmer、黒瀬武史、他「Privately Owned Public Space 公共空間としての民有公開空地」『季刊誌 cSUR』vol.25、無、全90頁、2013.1

松井大輔、窪田亜矢「神楽坂花街における町並み景観の変容と計画的課題」『日本建築学会計画系論文集』No.680、有、pp2407-2414、2012.11

窪田亜矢、永瀬節治、他「震災後の底力と

町並み再生の原動力：佐原復興の歩み」『季刊誌 cSUR』vol.15、無、全88頁、2012.8

[学会発表](計7件)

Tomoko MORI、Takefumi KUROSE、Yukio NISHIMURA「The Planning Theory of Kenzo Tange's Master Plan in Lumbini through the Study on its Planning Process, Plan for multipurpose by single design without any sectarian and bias」『International Buddhist Conference on "Promotion, Protection & Preservation of Buddhist Culture and Heritage』2014.11、Part 1、pp.10-20、

Tomoko MORI、Takefumi KUROSE「Re-understanding of the Lumbini project from the regional scale, focusing on the preliminary stage before Kenzo Tange's Master Plan」『5<sup>th</sup> International Academic Consortium for Sustainable Cities Symposium』2014.9

森朋子、黒瀬武史「ネパール・ルンビニにおける世界遺産登録を契機とした文化遺産保全の実態と展望」『日本建築学会大会学術梗概集(近畿)』pp.737-738、2014.9.12-14、神戸大学、兵庫県神戸市

傳舒蘭、黒瀬武史「Study on Preservation Planning and Management System of Buddhist Heritage in South Asia」『日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)』2013.8.30-9.1、北海道大学、北海道札幌市

永瀬節治、森朋子、西村幸夫「地域づくりの視点から見た史跡制度による集落保全の現状と展望 五箇山における歴史的環境の持続再生に関する研究 その1」『日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)』2013.8.30-9.1、北海道大学、北海道札幌市

森朋子、永瀬節治、西村幸夫「地域づくりの視点から見た史跡制度による集落保全の現状と展望 五箇山における歴史的環境の持続再生に関する研究 その2」『日本建築学会大会学術講演梗概集(北海道)』2013.8.30-9.1、北海道大学、北海道札幌市

Yukio, Nishimura「Authenticity of Bhutanese Heritage Buildings」『Consultative Meeting on Authenticity of Bhutanese Heritage Buildings(招待講演)』2013.2.1、Bhutan, Thimphu

[図書](計6件)

五十嵐敬喜、西村幸夫、岩槻邦男、松浦晃一郎、編著『甦る鉦山都市の記憶 佐渡金山を世界遺産に』ブックエンド、2014、144

五十嵐敬喜、西村幸夫、岩槻邦男、松浦晃一郎、編著『日本の城・再発見彦根城、松本城、犬山城を世界遺産に』ブックエンド、2014、168

UNESCO『The Sacred Garden of Lumbini, perceptions of Buddha's birthplace』UNESCO Publications、2013、(France)

様式 C - 19、F - 19、Z - 19 (共通)

UNESCO 『Lumbini, Birthplace of Buddha』  
UNESCO、2013、(France)

五十嵐敬喜、岩槻邦男、西村幸夫、松浦晃  
一郎 『古墳文化の煌めき 百舌鳥・古市古墳  
群を世界遺産に』ブックエンド、2013、160  
西村幸夫、他 『風景の思想』学芸出版社、  
2012、224

〔その他〕

ホームページ等

<http://ud.t.u-tokyo.ac.jp/ja/>

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

西村 幸夫 (NISHIMURA YUKIO)

東京大学・先端科学技術研究センター・教  
授

研究者番号：20159081

### (2) 研究分担者

窪田 亜矢 (KUBOTA AYA)

東京大学・大学院工学系研究科・特任教授

研究者番号：30323520

永瀬 節治 (NAGASE SETSUJI)

和歌山大学・観光学部・講師

研究者番号：10593452

黒瀬 武史 (KUROSE TAKEFUMI)

東京大学・大学院工学系研究科・助教

研究者番号：50597587

Dimmer Christian

東京大学・先端科学技術研究センター・助  
教

研究者番号：00601048